

# 表9. 放射線の胎児影響

- 胎児影響は確定的影響が主体、しきい線量があり(100mSv)、それ以下での影響の確証なし
- 催奇形性には臨界期(受精後3~8週)があり、それ以外での奇形発生はないとされているが、8~15週の被ばくで精神遅滞発生の報告あり
- 何処に住んでいるか、原発からの距離が重要
- 確率的影響も理論的にはあるが、被ばく線量が極めて低く(原発周辺以外)、次世代の発がんリスクはほとんど問題にならない
- 平常時と現在(原発事故が起こった)を区別して考え冷静に行動することが重要